

令和 5 年 6 月 3 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02507

研究課題名（和文）トマス・ハーディにおける男性性詩学 ジェンダー体制の動揺と物質主義、そして現代

研究課題名（英文）Masculinity in Thomas Hardy's Novels

研究代表者

亀澤 美由紀（Kamezawa, Miyuki）

東京都立大学・人文科学研究科・教授

研究者番号：60279635

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究ではトマス・ハーディ(1840-1928)の後期小説における男性性のありかたをヴィクトリア朝後期の物質主義・消費文化と照らし合わせて分析した。ハーディの小説には男性性が、E. K. Sedgwick述べている「男性ホモソーシャル性」の原則にしたがって描かれている。ところが後期小説に至ると、その原則が崩れていく様子が見て取れる。その原因を本研究は19世紀末の物質主義・消費文化に辿り、モノのあふれる物質主義社会とジェンダー体制の揺らぎとに実は密接な関係があることを析出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ハーディの小説をめぐって、19世紀におけるジェンダー体制の綻びと、経済変動との結びつきを示唆する見解はこれまでも聞かれた。しかしながら、両者の関係をテキストに密着して分析した研究はこれまでになく、本研究はジェンダー体制の揺らぎと経済とを同心円状に論じたものとして、意義があると考えられる。そのことはまた、ジェンダー体制が依拠した「男性ホモソーシャル性」の原則（E. K. Sedgwick）の限界を示唆するものでもある。Sedgwickの論に依拠しつつ、それを越えた地点を目指す研究としても、本研究は重要な意義をもつものである。

研究成果の概要（英文）：This study analyses masculinity in Thomas Hardy's later novels in the context of late Victorian materialism and consumer culture. In Hardy's novels, masculinity is depicted according to the principle of "male homosociality," as described by E. K. Sedgwick. However, in the later novels, we can see a breakdown in this principle. This study traces the cause to the materialism and consumer culture of the late 19th century, and analyses the connection between the materialistic society and the fluctuation of the gender system.

研究分野：英文学

キーワード：トマス・ハーディ 男性性 物質主義 モノ理論

1. 研究開始当初の背景

1990年代以降、ハーディ文学を男性性構築の物語として読み直す動きが散見されるようになった。この動きの根幹にあったのは男性ホモソーシャル連続体の理論(E.K.セジウィック)である。セジウィックの『男同士の絆』(1985)が発表されて以来、ヴィクトリア朝男性性に関する研究は高まりをみせ、Herbert Sussman, *Victorian Masculinities* (1995); James Eli Adams, *Dandies and Desert Saints* (1995); Andrew Dowling, *Manliness and the Male Novelist in Victorian Literature* (2001); John Tosh, *Manliness and Masculinities in Nineteenth-century Britain* (2005)といった著作が発表されてきた。ハーディ研究においても Richard Dellamora, Tim Dolin, Annette Federico, Laura Green, Richard Nemesvari, Andrew Radfordらが興味深い論文を発表し、専らフェミニズム文学としてみなされてきたハーディ文学に男性性研究という新天地が切り拓かれてきた。

しかしながら、「男性性の分析は21世紀のハーディ批評において重要な焦点となるだろう」とJudith Mitchellが2010年に述べたとおり(*The Ashgate Research Companion to Thomas Hardy*, p.310)、ハーディの小説全体を俯瞰して男性性分析を構築主義的アプローチで行った研究は、今なお、国内・外ともになかった。

2. 研究の目的

本研究は、ヴィクトリア朝の男性性は、ホモソーシャルな欲望にホモフォビア、ミソジニーが刻印された社会的構築物であるという定義のもとに、ハーディ文学における男性性のあり方を探ることを目的とした。同時に、男のホモソーシャルな欲望の導管として扱われる女がどのような意味を担わされ、どのような意味を産出していかも明らかにしようとした。その際、男性による女性の交換を、その他の交換システム(言葉と貨幣の交換システム)と重ねて論ずることに論の眼目とした。それは、貨幣・言語システムを分析の俎上に載せることにより、男性性構築のプロットが、経済(特に信用経済)そして文学様式(リアリズム/モダニズム)のテーマと連動している様子が浮かび上がるはずであるとの予測からである。

3. 研究の方法

本研究者は科研費研究(2013-16年度)において、男性による女性の交換を、より大きなエコノミー<身体・ことば・貨幣の象徴交換>に据えて検討することの可能性を論じた。そのなかで、近代から現代を通じて社会が経験してきたシステム変動(性の揺らぎ・文学ジャンルの変遷・信用経済の発達)が、個々バラバラではなく密接に関連した事象であり、そのことがハーディの小説・映画作品に見事に描き出されていることを突き止めた。さらに2013-16年度の研究では、セジウィックの理論の限界点も見えてきた。セジウィックは、男性にとって確固としたセルフ(主体)が獲得可能であるという前提に立つ。その上で、それを獲得するためにはホモソーシャル性の原理が重要になってくるというのが彼女の主張である。しかしながら、『日陰者ジュード』の世界ではそれが成り立たない。ジュードが労働者であるという階級の問題を差し引いても、ジュードの男性主体はセジウィックの理論では説明のつかない要素を抱える。セジウィック理論の限界が露呈したかたちであり、その限界をどのようにとらえ、解決するかが本研究の根本課題でもあった。

本研究の目的と課題が検討されるよりしばらく前に、Thing Theory の存在に注意を向けられ、Bill Brown, *A Sense of Things* (2003)をはじめとする「モノ理論」の有用性を考えるようになっていた。モノが人間主体を客体化するというこの理論を用いることによって、たとえばジュードの男性性分析を次の段階へ発展させることができるであろう。そこから得られた分析結果をもとに、ハーディの後期小説を前に遡るかたちであらためて読み直すことにより、これまで見えていなかった男性主体とモノとの関係、さらには人と物質主義との関係が見えてくるだろうと予測された。

4. 研究成果

(1) 理論構築

ジェンダー研究と、ハーディのテクスト世界における物質主義、経済活動のありかたとを関連づけるための理論構築を行った。第一に、セジウィックのホモソーシャル理論をはじめとして、ヴィクトリア朝の男性性を分析したジェンダー研究を概観し、ハーディ文学が描く男性性を構築主義のアプローチで分析するための下地を作った。第二に Jean-Joseph Goux や John Vernon らによる言語・貨幣論と Peter Brooks や Francis Barker らによる身体論、George Levine らによる文学様式に関する研究を確認した。第三に、Bill Brown の Thing Theory およびその周縁の研究を調査し、第一、二の考察結果に接続させた。Thing Theory 自体がまだ新しく、それを文学研究に援用した例は国際的にもまだ数少ない。その点において、Thing Theory を含めた理論構築を組み立てたことの意義は大きい。

(2) *The Trumpet-Major* 分析

帝国主義の時代に書かれたナポレオン戦争下のイギリス南部を描いたこの小説をとりあげて、男性性の表象を分析した。その結果、やや時代錯誤的な感があるものの、この小説の男性性の表象があたかもハーディの時代の読者におもねるかの如く、帝国主義下におけるジェンダー・イデオロギーをまとっている事実を析出した。

(3) *The Woodlanders* 分析

この作品は特に、経済活動(カネの交換)とジェンダー支配(女性の交換)という二つの象徴交換システムが重なる交点に、男性登場人物たちの男性性獲得の物語が展開していくように仕組まれている。その事実焦点をあてて分析を行った結果、男性登場人物の主体性崩壊が、信用経済による価値観の浮遊化というプロセスと呼応するかたちで生起している事実が観察された。そしてまさにこの小説以降、経済システムの動揺とジェンダー体制の揺らぎとが、顕著なかたちでハーディの作品のなかにクローズアップされていくのではないかと結論を得た。

(4) Thing Theory の有効性確認と *Jude the Obscure* 分析

Thing Theory がハーディ文学の分析に有効であることを検証・実証するために、*Jude the Obscure* にそれを援用して、男性性の表象が物質主義とどのように関連して描かれるかを調べ、その結果、Thing Theory をハーディ文学に援用することの有効性を示すことができた。さらに重要なことには、Thing Theory を使うことによって、小説から詩、そして『霸王たち』へと移行していったハーディの文学的変遷を、思想・哲学の側面から浮かび上げることができた。そしてまた、モノを中心とした感覚が、浮遊化の進む現代社会のあり方にも通ずることを確認した。

(1)～(4)でなされた分析結果・研究論文は、さらに議論を精緻化したうえで、次の科研費研究「Thing Theory で読むハーディ文学 ジェンダーの揺らぎと「ひと」の解体」(2021-2024年度)で大きな論文にまとめることとなる。

Covid-19 によるパンデミックの影響でイギリスでの資料収集を阻まれ、研究期間を延長しなければならなかったものの、日本で足踏み状態にあったその期間に、小説と詩との関連性に目を向けることができたのは最大の収穫であった。そのつながりは、次の科研費研究の柱である「ひとの解体」というテーマに発展・継承されていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 亀澤美由紀	4. 巻 90
2. 論文標題 「ソロルド・ディキンソン監督 幻のThe Mayor of Casterbridge」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 「日本ハーディ協会ニュース」	6. 最初と最後の頁 3-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 亀澤美由紀	4. 巻 516-10
2. 論文標題 Masculinity and the Culture of Investment: A Study of George Melbury in The Woodlanders	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 亀澤美由紀	4. 巻 515-10
2. 論文標題 A Note on The Trumpet Major, a story with a disclaimer	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『人文学報』	6. 最初と最後の頁 59-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 亀澤美由紀	4. 巻 1
2. 論文標題 "High harmonies transubstantiated him"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『FORMES』	6. 最初と最後の頁 94-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyuki Kamezawa	4. 巻 514-10
2. 論文標題 Symbolic Economy and the Masculine Identity: Theoretical Grounding	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文学報 (表象文化論)	6. 最初と最後の頁 61-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------